

平成27年度 町長施政方針

「心豊かで活力ある環のまち大木」をテーマに、町の将来を見据えた6つのビジョンである「健全財政の堅持と協働・交流のまちづくり」、「誰もが健康でいきいきと暮らせる健康・福祉のまちづくり」、「子どもの「生きる力」を育み地域全体で応援するまちづくり」、「農業をはじめ産業を元気にするまちづくり」、「子どもたちの未来を考えた環境共生の循環のまちづくり」、「安全で安心して暮らせるまちづくり」を目指して、「地方創生」の時代を切り拓いていく。



水と緑輝く 環境先進のまち

「大木町もつたいない宣言（ゼロ・ウェイスト宣言）」では、平成28年度までにゴミの焼却・埋立てゼロを目標に、廃プラスチック類のリサイクルシステムの確立に向け取り組みを強化。ごみ減量化の事業はふるさと納税の財源活用で実施し、ごみの発生抑制対策やリユースの推進にも精力的に取り組む。

おおき循環センター「くるるん」の経年劣化に対し予防保全による施設維持費の低減に努めていく。また、生ごみ分別の徹底と液肥の利用の推進にも引き続き取り組む。地域住民の皆さんと環境美化に取組み、定期的な環境保全。パトロールを行い、野焼き防止やポイ捨ての対策を新たに講じる。

安全・安心な飲料水の安定供給に向け、平成27年度から、5カ年計画で第一期配水管路耐震化事業に着手し、水道管の更新や耐震化を図っていく。

一般社団法人大木町合併処理浄化槽維持管理協会は、加入率の初年度目標80%を達成した。負

担軽減に向け適切な運営を支援する。

誰もが元気になる 健康福祉のまち

子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、子どもたちの健やかな成長を目指した事業を推進。妊娠・出産・育児を切れ目なく支援する地域子育て支援センター機能の充実を図り、乳幼児等医療費助成の拡充を図る。また、学童保育事業の充実を図るため、大溝学童保育所を増設。

高齢者問題は、地域包括支援センターを中心に、高齢者に寄り添うことを旨に介護予防を柱とした取組を推進する。

障害者就労施設等からの物品等調達方針に基づき障害者が就労している施設等による受注を促進する。

災害時の避難困難者の安全対策については民生委員会、自主防災会との連携強化に努める。

次代を担う人を育む 教育文化のまち

35人以下少人数学級制やALT、中学校学習サポーター、及び特別支援教育支援員の配置事業の継続、家庭教育支援員活動及びスクールカウンセラーによる教育相談の充実を図る。学校教育施設の充実を図り安全・安心な教育環境の整備を推進。

町民が自発的な学習活動に取り組む、その成果が活かされるよう町民活動の総合的な支援に努める。

図書・情報センターでは、図書館運営の安定化や利用者サービス向上のため図書館システムの更新を行う。

生涯スポーツ社会の実現に向け、スポーツの「場」や「機会」の充実を図る。

豊かで活力に満ちた 元気産業のまち

農業の振興は、「人・農地プラン」に基づき、新規就農者や担い手の育成・支援、農地集積を推進。高収益型作物における高品質化、省力化技術の導入を支援し、大木町ならではの新たな農産加工品開発も支援。

地域密着型商業活動の展開や町内事業所の育成振興を図る。

なお、地域振興券発行助成を倍増し、住宅改修事業は、国の補正予算による地方創生交付金を活用し実施する。

「道の駅おおき」周辺農地の利用者の利便性、魅力向上のため、施設の拡充整備を行い、都市農村交流を促進。

さらなる発展の 基盤が整ったまち

景観保全及び適切な土地利用の推進のため、「まちづくり条例」

制定を目指した検討を行う。

大溝駅周辺のインフラ整備の検討に着手。基幹的道路は国の事業の活用により推進する。

発信力向上やサービスの充実、自治体経営の効率化など町全体の活性化のため情報化を推進。新たな地域防災計画に基づき、総合防災訓練を実施し、非常用食料品の備蓄整備などに取り組む。

消防団活動を推進するため、団員の装備品の充実や、既設の消防サイレン及び消防団車載受令機の整備を図る。

みんなの力で 未来をつくるまち

男女共同参画社会の形成に向け、女性が自らの希望を実現して輝くための社会環境づくりに取り組む。また、政策や方針決定の場への女性の参画を促進するため、町の審議会などの委員への女性登用率30%を目指す。

木佐木校区コミュニティ組織の設立に向けた検討に着手。まちづくりに関する相談体制の整備を図り、情報・意識の共有化など、各団体を緩やかに繋いでいくネットワークづくりを目指す。

「地方創生」に向けた取組として、平成27年度に策定する「人口ビジョン」及び「総合戦略」は、国の補正予算による地方創生交付金を活用し対応する。